

絵本とは何か

－民話・昔話絵本を利用につなげよう－

児玉 孝乃（図書館学）

1. はじめに

「幼稚園教諭」、「保育士」さらに「司書」資格を取得する学生に対し、「昔話」、「民話」、「童話」とは何かについて尋ねた。「童話」については、グリム童話を中心に、「赤ずきん」「白雪姫」などがあげられた。では、「民話」「昔話」について同じ質問をした。区別がつかなかったが、「浦島太郎」「桃太郎」などがあげられた。

そこで、今回、絵本とは何か、絵本はいつから始まったのか、絵本を中心に、「むかしむかし、あるところに…」で始まる「昔話」や「民話」さらに「童話」に焦点をあて、「読み聞かせ」「語り聞かせ」として園児に紹介されている絵本について、まとめることとした。

理解を深め、資料をよく知り、絵本を活用してもらいたいと考える。

そのため、平成 22 年度の司書資格取得学生の実習園の昔話絵本、童話絵本の実態も調査し確認することとした。

さらに、「児童サービス」のスペシャルリストである公共図書館（県内の代表的な 2 図書館）の昔話絵本、童話絵本についての現状も確認し、公共図書館の絵本をもっと有効に活用できないかをさぐる。

ここでは、「読み聞かせ」「語り聞かせ」の重要性、方法などについてはふれない。

学生の幼稚園実習、保育園実習、施設実習での「読み聞かせ」、「ストーリーテリング」、「紙芝居」などの利用促進を図り、生涯にわたって利用する公共図書館の活用と司書としての知識、技術を磨く基本につながればと考える。

2. 絵本とは何か

絵本とは、『広辞苑』^{注1)}によると、①挿絵

のある書籍。絵の本。絵草紙。②絵の手本。③絵を主体とした児童用読み物。とある。

『日本児童文学大事典』^{注2)}では、絵（または絵と文）を用いてストーリーやテーマを効果的に表現したもの。

『新・こどもの本と読書の事典』^{注3)}では、「絵とことば」、「描く力」と「語る力」がからみあって、ひとつの流れを持ちながら、構築される世界とある。

また、「絵の本」は、一般書とは異なり、表紙という絵本の世界の入り口から、見返しにより幕が上がる。標題紙の扉を開けて、本文という舞台となる。舞台の終了が後ろの見返しで余韻を楽しみ、裏表紙で幕が下りる。つまり、絵本は表紙の入り口から裏表紙の出口まで絵本なのである。

さらに、絵本は、本と読み手の一対一の関係というより、絵本と読み手と聞き手の三者の関係といわれる。読み手の声・間、表情を通して絵本の世界がふくらみ、聞き手にとどけられ、聞き手の反応により読み手を支えるといった相互の関係により完結する世界ということである。

絵本は、子どものためのもの、特に幼児のためのものと思われる。幼児の情操教育に大きな役割を果たし、文字の読めない幼児に絵本の想像力と創造性を養い、絵によってストーリーの世界へ誘うということである。

児童文学家の松居直氏は、絵本について、「絵本は子どもに読ませる本ではない。大人が子どもに読んでやる本である。耳で音を聞いて、目で挿絵を読んで（中略）読んでもらう時に不思議な働き、大きな世界をつくっていく。自分で読んでいては絵本は分からない。」さらに、「絵本というのはバリアフリー、子どもから大人まで、言葉と絵で非常に幅がある自在な世界」^{注4)}と大人にこそ読んでほしいと力説している。

3. 絵本の種類

内容的区分

物語絵本
民話絵本（昔話絵本）
知識絵本
科学絵本
あいうえお絵本
ものの絵本（認識絵本）
保育絵本
生活絵本（しつけ絵本）
童謡絵本（うたの絵本）

様式的区分

文字なし絵本（純絵本）
開く絵本
仕掛け絵本
大型絵本
小型絵本
積み木絵本

画材的区分

クレパス、インクなどを使用した絵本
写真絵本
貼り絵絵本
切り絵絵本
版画絵本
組み木絵本

障害者用

布の絵本
触る絵本

対照年齢別

赤ちゃん絵本
幼児絵本
若い人の絵本

その他

創作絵本
翻訳絵本
再話絵本

以上のように、内容別、様式別、対照年齢別など様々な絵本が出版されているため、絵本を定義づけるのは困難であるといわれている。^{注5)}そのため、絵本の定義には「絵本の歴史」が大きく関係してくる。

4. 日本の絵本の歴史

4-1. 絵本のはじまり

絵と言葉で表現されたものとして、12、3世紀の絵巻物、『源氏物語絵巻』『信貴山縁起絵巻』『鳥獣戯画』などが日本の絵本の源流、世界最初の絵本といわれる。しかし、「絵による童話」としての流れは発展しなかった。次いで、江戸の草双紙や赤本が、子ども用の絵本のはじまりといわれ、昔話、づくし物、武者絵本などがあり、起源には2説ある。^{注6)}

1) 小池藤五郎説

1662（寛文2）年の『ねずみのこうさく』

子ども用絵本のスタイルを確立し、その後、江戸の赤本となった。

2) 岡本勝説

1979年、三重県松阪市射和寺境内大日堂の地蔵菩薩坐像の胎内から発見された10冊の絵本。1673（延宝5）年の『おぐり判官てるて物語』など、上方版の明らかな絵本。

江戸より上方で子ども向きの絵本が流行し、その後、江戸の赤本となった。

明治期になると、赤本の伝統をひきつぐ、どぎつい赤色表紙の「赤本絵本」という廉価本がおもちゃと一緒に並べられていた。

4-2. 子どものための絵本

幕末から明治期にかけて、欧米からの教育思想・制度、科学技術の導入に加え、木版から銅版・石版、写真版、色刷印刷は日清・日露戦争の新聞報道を契機に子ども用の雑誌の表紙、口絵も色刷りで出版されるようになった。^{注7)}

1885（明治18）年、日本の昔話の英語版による縮緬本が工芸品として輸出されるようにな

る。「因幡の白兎」などの絵本化で、彩色と構図はその後の絵本に影響を及ぼした。^{注8)}

本格的な子どものための絵本としては、1891(明治24)年、博文館の『少年文学』叢書の第1編となった巖谷小波(いわやさざなみ)の創作童話『こがね丸』^{注9)}の刊行である。

図1. の巖谷小波^{注10)}は、1894(明治27)～1896(明治29)年にかけて、縮緬本で『日本昔噺』(24編)を刊行した。口承による童話の集録で、日本語で出された最初の個人著作である。この中には、「桃太郎」「猿蟹合戦」「花咲爺」「かちかち山」などが含まれていた。

1896(明治28)～1899(明治32)年には、「日本お伽噺」を刊行している。その後、1906(明治39)年、絵雑誌「幼年画報」、「小波お伽噺」からの「お伽画帖」を刊行する。なかでも、1901(明治34)～1905(明治38)年の「日本一ノ画噺」(35編)は近代絵本の傑作とされている。^{注11)}



図1. 巖谷小波

小波は口で話をするように書き、漢字にルビをふるなど、子どもに分かりやすい文章をこころがけた。^{注12)}

4-3. グリム童話の紹介

グリム童話が日本に初めて翻訳されたのは、1887(明治20)年、桐南居士(菅了法)が翻訳した『西洋古事神仙叢話』(集成社書店)であり、「灰かぶり」も訳されていた。絵本ではなく挿絵が中心であった。^{注13)}

その後、小波はドイツ留学中に、グリム童話に接し、1895(明治28)年に『子猫の仇』と題し、『オオカミと七匹の子ヤギ』を翻案した。

『少年世界』に執筆したグリム童話には、1896(明治29)年の「小雪姫」「紡績姫」など、日本人向けに翻訳・翻案して紹介をした。

1899(明治32)～1908(明治41)年にかけて『世界お伽噺』(100編)など、東西の昔話・童話の再話集を刊行し、明治期の童話作家としての確固とした地位を築いたのである。

グリム童話の教訓的内容は、明治期の日本の教育方針に添い、その後の日本児童文学へと発展していく。

グリム童話以外の翻訳本として、『イソップ物語』『暴夜物語(アラビアンナイト)』、『ヴェニス商人』の翻案『人肉質入裁判』、『ロビンソン・クルーソー』の翻案『回生美談』などが明治10年代に多数出版された。^{注14)}

小波は、口承などの古来の童話を「昔噺」と命名し、創作および創作的再話の童話を「お伽噺」と区別したことでも知られる。^{注15)}

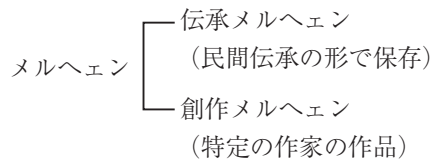


図2. グリム兄弟の下位区分

図2. はグリム兄弟の下位区分^{注16)}を図式化してみた。メルヘン(昔話)の区分を小波は継承している。

4-4. 日本の児童文学の誕生

1908(大正7)年、鈴木三重吉による『赤い鳥』創刊を機に、童話・童謡雑誌が刊行し、日本の児童文学がスタートした。^{注17)}

巖谷小波のストーリー性や娯楽性を批判として文学性、芸術性を追求し『赤い鳥』や、『金の船』など、多彩な児童文学作家が輩出された。

近代日本におけるこどものための童話は、巖谷小波に出發し、大正中期の小川未明、浜田広介、宮澤賢治などにより一応の成立を見た。^{注18)}

1) 文芸童話の作家

童話作家 (芥川龍之介・佐藤春夫・島崎藤村・
小川未明・塚原健二郎・楠山正雄・新美南吉)
童謡作家 (北原白秋)

『赤い鳥』以外の童話作家

(浜田広介・坪田譲治・千葉省三・
宮澤賢治) など

坪田譲治	きつねとぶどう
	こどもじぞう
	ぜんたとさんぺい
	びわの実
	まほう
新美南吉	おじいさんのランプ
	きつねのつかい
	ごんぎつね
	てぶくろをかいに
	ぬすびととこひつじ
浜田広介	三ばの子すずめ
	ないた赤鬼
	むく鳥のゆめ
	よぶこ鳥
	やさしい星
宮澤賢治	風の又三郎
	銀河鉄道の夜
	セロ弾きのゴーシュ
	どんぐりと山猫
	注文の多い料理店

表1. 代表的な童話作家と作品

2) 幼児向け絵雑誌

1904年 『お伽絵解こども』 大阪児童美育会
『子供の友』 婦人の友社
1905年 『絵ばなし』 尚友館
1906年 『幼年画報』 博文館
1922年 『コドモノクニ』 東京社
1923年 『コドモアサヒ』 朝日新聞社
1928～29年 『コドモエホンブンコ』 誠文堂
「童画」を確立した多色刷りの芸術的絵本
1927年 『観察絵本キンダーブック』
フレーベル館
「幼稚園令」(1926年)「観察」の副読本

直販制による「月刊保育絵本」

1937年 『小学科学絵本』 東京社

最初の科学絵本として刊行^{注19)} など

4-5. 講談社の絵本

1936(昭和11)年11月、講談社から単行本形式による全ページ多色刷りの絵本が大量生産、大量販売で発行される。「ベッタリ絵本」^{注20)}と呼ばれ、絵本の世界に多大なる影響を及ぼした。

内容は、偉人伝・お伽話・科学と知識・漫画により大人の教育的観点から子どもが喜ぶ物語性を重視して発行された。

図2. 講談社の絵本は、国際子ども図書館のホームページによるもので、1942年終刊となり、その後「コドモエバナシ」と改題し、1944年まで発行する。戦後1945年「講談社の絵本 イッポンワラ」と改題して発行。1946年再度「コドモエバナシ」で1958年9月まで刊行された。年4冊の刊行により、戦後の復刻版を含め約7千万部の販売数を誇り、絵本が身近で多彩なものとなった。^{注21)}



図2. 講談社の絵本

4-6. 戦後の絵本

1946年3月 児童文学者協会の設立
1949年までは、連合軍による出版物の占領
検閲の時代であった。
1949年 「世界の絵本」 新潮社
1947年～「ベビーダイジェスト」 至光社
(こどものせかいに改題)
1953年～「岩波の子どもの本」 岩波書店
1956年～「こどものとも」 福音館書店など

アメリカの絵本の翻訳が相次ぎ、菊判変型に統一し、外国絵本の左開きを右開きに苦心して編集した。しかし、余白の多い絵本は新鮮であり、教訓や知識から、小波が求めた分かりやすい、明るい絵本へと変わった。

1953（昭和28）年の「学校図書館法」の制定と同時に、テレビ放送の開始や印刷メディアの出現が子どもの絵本の発展に大きく変化をもたらした。

単行絵本やシリーズ絵本の出版が相次ぐ^{注22)}

「こどものとも傑作集」福音館書店

1969年～「月刊かがくのとも」

1977年～「年少版こどものとも」

1985年～「たくさんの不思議」 など
ロングセラー絵本となった。

5. 再び絵本とは何か

1969（昭和44）年後半～1970（昭和45）年代「絵本ブーム」の到来により、出版者の増大、「絵本作家」の登場により、絵本の普及が進展し、日本の絵本の国際的な評価が高まった。^{注23)}

1980年 国際アンデルセン賞画家賞

赤羽末吉

1984年 安野光雅受賞

ほかにも、BIB世界絵本原画展賞・ボローニャ国際児童図書展賞の受賞者も多く輩出されるようになる。

絵本を媒体した活動、絵本とは何かを論ずる絵本学会の設立も相次いだ。

「絵本の主体は絵である」との絵本論は定着し、美術論的立場の絵本論も多く出された。^{注24)}

「絵本とは何か」の定義にとらわれず、「絵本でどういう表現が可能か」が問われるようになった。^{注25)}

6. 民話と昔話

『広辞苑』^{注26)}によると、「民話」とは、「民衆の中から生まれ伝承されてきた説話。民譚」とある。また、「昔話」は、①以前あった事柄についての話。古い話。むかしがたり。②民俗

学で、口承文芸の一つ。具体的事物と結びついて語られる伝説と異なり、空想的な世界を内容とし、冒頭が「むかしむかし」などの句をもって始まるものが特徴。花咲爺・桃太郎・舌切雀などの類。民間説話とある。

『児童文学事典』^{注27)}によれば、「いつとも知れない時代から、作者も知られず民間で語られてきた、たとえば「桃太郎」や「サルカニ」のような物語を「昔話」と呼んできたが、近年はこれを「民話」と呼ぶ人が多い。しかし、ひとつの事項に二つの呼名があるため、これを区別するのが望ましい。（中略）「民話」は「民間説話」をつづめた言葉として、広く伝説、世間話など、ことわざなどをふくむ民間の伝承文芸の全体をさすのに用いる。

「昔話」はその一種である特定の様式をもった話をさす。「昔話」は他の民間説話とはっきり区別される特質をもっている。

「昔話」は民話の中では、比較的後期に成立したもの。他の民話に比べ、①特定の語りだしの言葉と結びをもつ。②いくつかのモチーフを組み合わせて一篇の物語を構成している。③語り口もほぼ一定し、また話の途中で似通った行為を三度くりかえして筋を盛り上げ、展開させるような技巧を用い、かなり高度に様式化され発達した文芸である。とされ、「民話」「昔話」とともに、定説がないとしている。

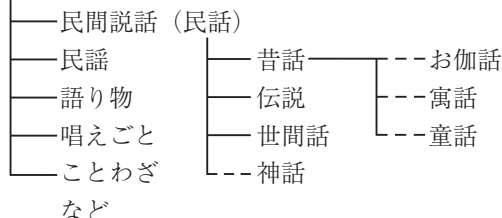
「童話」について、『広辞苑』^{注28)}では、「こどものために作った物語。お伽話のほか、伝説・寓話などを含む。「グリム劇」とある。

『児童文学辞典』^{注29)}では、二つの意味に分かれてきた。①日本民俗学における伝承童話を意味する。神話が進行を喪失して童話となり、成人の興味をひかなくなって子どもの管掌するところとなったもの。「桃太郎」「さるかに」などを含む。②近代的な児童文学における空想的な創作物語を意味し、大正期には、「わらべ」のための「話」というところから児童文学の同義語としても使用されるとある。

用語説明のなかで使用されている「口承文芸」「民間説話」「伝説」「世間話」「お伽噺」「神話」「寓話」などについても確認する。

6-1. 口承文芸

口承文芸



種類	人物・時 場所	語られ方	語り・ 話の形
昔話	不特定	事実ではない	あり
神話	特定	事実	なし
伝説	特定	少しは事実	なし
世間話	特定	事実	なし

表 2. 民話の相違

『日本昔話ハンドブック』^{注30)}を参考に、破線部分について、補足を試みた。

「民話」は、民間説話（民間において口承で伝えられてきた散文形式の物語）で、昔話・伝説・世間話の総称で、民間説話はその略称である。

「神話」は、天地創造、生命の起源、神々の活躍する話であるが、奈良時代の『古事記』、『日本書紀』など書承によって伝えられた神話も多く、厳密には昔話とは言えないとされる。

「お伽話」は、夜間に娯楽、慰安のため語られる話で、戦国時代の語り部集団を「お伽」「お伽衆」と称したことから、この言葉が定着したようである。その後、巖谷小波により子どものための物語に「お伽噺」を用い、小川未明により「児童のための創作物語」の意味で用いられた。しかし、大正期の『赤い鳥』では「お伽噺」に代わり、「童話」が定着した。そのため、「幻想的創作物語」、「民話風物語」の意味で使用されることが多い。

「寓話」は、処世的な教訓、社会風刺が込められたたとえ話である。動物寓話が多く、日本では、『イソップ寓話集』の翻訳『伊曾保物語』（1593年）により伝来し、この物語は、昔話の中におさめられていることが多い。

「民間説話」や「神話」などを現代的にわかりやすく書きなおしたものを「再話」という。

「再話」には、原話を忠実に訳したものと、原話のモチーフや精神を素材とし、自由に物語化した「再創造」と呼ばれる2種類がある。また、「創作民話」とも呼ばれる。日本風にアレンジされた作品は「翻案」という。

「民話」は、内容や形式により、「昔話」「伝説」「世間話」に分けることができる。

表 2. 民話の相違^{注31)}では「神話」も加えて比較した。「民話」は、口承文芸として発展した。

口から口へと語り伝えていく伝承は、今日、保育所・幼稚園・学校・老人施設などストーリーテリング（素話）として広がっている。^{注32)}

ストーリーテリングは児童図書館員の必須の技術でもある。また、民話絵本は、「再話」として発行され、利用されている。

日本の昔話の中に、「イソップ寓話」や「グリム童話」と良く似た物語があるとされる。^{注33)}

諸説には、「昔話」のインド起源説、思想感情が民族の違いを超えて共通するから、同じような歴史をたどってきたからとする説である。

そのため、同じタイトルの絵本による読み違いも紹介されることが多い。

民話	昔話
かさじぞう	うらしまたろう
だいくとおにろく	おむすびころりん
ぶんぶくチャがま	さるかに合戦
ゆきおんな	したきりすずめ
わらしべ長者	ももたろう

表 3. 代表的な民話・童話

グリム童話	イソップ寓話
赤ずきん	ありときりぎりす
いばら姫	うさぎとかめ
金のがちょう	きたかぜとたいよう
しらゆきひめ	つるときつね
ヘンゼルとグレーテル	にくをくわえた犬

表 4. 代表的なグリム童話・イソップ寓話

7. 実習幼稚園の昔話絵本

7-1. 昔話絵本の調査

1) 調査期間

平成 22 年 5 月 31 日(月)～6 月 19 日(土)
3 週間の幼稚園(私立)実習期間中

2) 調査対象

司書資格受講生で幼稚園実習実施学生
30 名(2 年幼児教育専攻の学生)

3) 調査方法

「図書館サービス論」課題レポート:「実習園を調査しよう! : 実習園の資料を理解する」教員への聞き取り、自身による実地調査

4) 回収率

76.7% (30 名中提出者 23 名: 重複園 2 名)
未提出 7 名(内訳: 実習を実施していない 3 名・受講途中棄権者 3 名・絵本を使用しない園 1 名)

528 人と最多の園が 1 校あった。

また、50 人未満の園児数に対しても、10 人未満の教員数を要し、少人数で対応していることがわかる。

2) 絵本の所蔵冊数

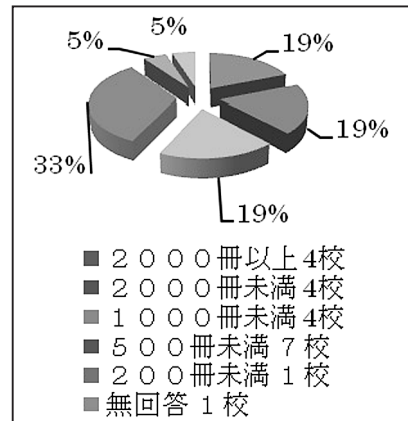


図3. 絵本の総冊数

7-2. 実習園調査内容の結果

1) 教員数と園児数

単位: 校

教員数		園児数	
区分	園数	区分	園数
5 人未満	0	50 人未満	1
10 人未満	4	100 人未満	3
15 人未満	6	150 人未満	5
20 人未満	2	200 人未満	2
25 人未満	3	250 人未満	4
25 人以上	5	300 人以上	5
無回答	1	無回答	1

表5. 教員数と園児数

表5. は実習園の教員数と園児数を見たものである。重複する実習園 21 校において、15 人未満の教員数の園が最も多い。次いで 25 人以上の教員を要する園がこれに続く。

園児数においては、150 人未満、300 人以上を要する園が各 5 校である。すべて県内の私立幼稚園であるが、300 人以上の園の中には、

図3. は絵本の所蔵冊数をみたものである。実習園 21 校の中では、500 冊未満と回答した園が 7 校と最も多い。

無回答を除く 1 校以外、1,000 冊未満、2,000 冊未満、2,000 冊以上を所蔵する園が各 4 校で、計 12 校である。

最も少ない園では、114 冊、最も多い園で、約 5,600 冊との回答を得ている。園児数との関係から、114 冊の園児数は 240 名、1 人当たり 0.48 冊である。約 5,600 冊の園児数は約 400 名で 1 人当たり 14 冊と著しく差がある。

しかし、園児数と所蔵冊数には特に関連は得られない。園の方針・資料購入予算額の格差と考えられる。

3) 絵本(昔話・童話)の割合

図4. は絵本の所蔵冊数の内訳を見たものである。民話絵本(昔話や童話)が総冊数に占める割合である。200 冊未満の園では、4% (昔話)、3% (童話) の所蔵である。2,000 冊以上を所蔵する園では、昔話・童話絵本共に各

15%の所蔵である。しかし、500冊未満の園が2,000冊以上所蔵する園に匹敵し、それ以上を所蔵していることがわかる。

特に、昔話絵本の所蔵が多いことである。民話絵本として、昔話・童話・伝説・神話等も含み、日本、外国の絵本の合計所蔵冊数である。

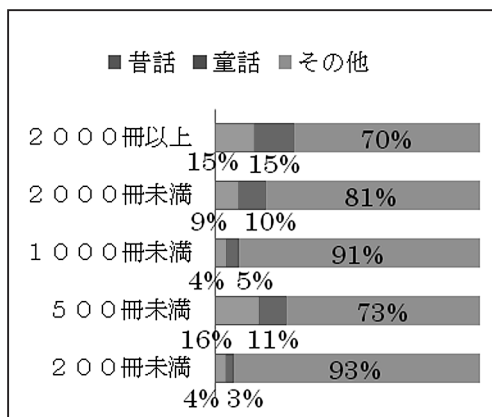


図4. 昔話絵本・童話絵本

4) 昔話絵本・童話絵本の利用頻度

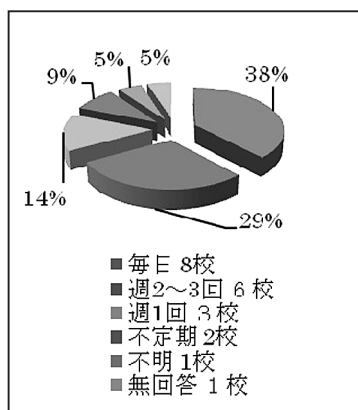


図5. 利用頻度

図5. は実習校21校の1日の絵本の利用頻度である。正確とはいえないが、この中で民話1人1冊、10校が5歳児を中心に利用している。5校が3歳児～5歳児を対象に利用している。

不明、無回答を除く残りの4校が3歳児～5歳児の年齢別に利用をしていた。

また、最も多い時間帯の利用は帰りの会で、

8校であった。「平成21年度の実習園調査」^{注34)}の利用時間帯も帰りの会が最も多い6割の結果であった。

5) 絵本の年間購入冊数と収集規程

調査を実施したが、正確な回答が得られていない。21校中、9校が不明であった。

無回答を除く2校以外では、年間10冊から120冊までと幅広い。また、年度により購入冊数に相違がある園や、全く購入しない園もあった。「平成21年度実習園調査」^{注35)}では、年間約20冊前後の購入が3割であった。200冊前後の園も2校あった。

図6. は選書方針や収集規程の有無をたずねたものである。21校中、あると回答した園は3校であった。ないは11校、無回答7校であった。

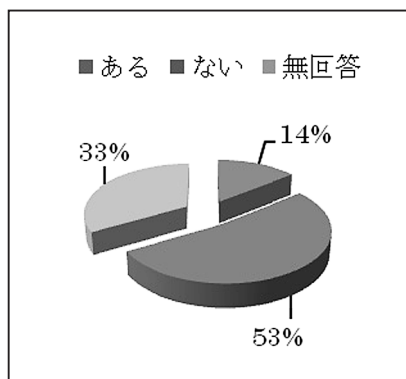


図6. 絵本の選書・収集規程

8. 公共図書館の昔話絵本

8-1. 岐阜県図書館の場合

岐阜県図書館の「児童サービス」におけるホームページ^{注36)}によれば、児童コーナーと「児童図書研究室」との設置である。児童コーナーでは、科学絵本、認識絵本などやあそび・ことばなど子どもの目線に配慮した利用区分がされている。

さらに、物語絵本については、にほん・がいこくの絵本による排架がされている。

特長的なのは、1972年に創設された「児童図

書研究室」(旧・児童図書研究センター)である。

この研究室では、「こどもと本との出会い」を勧めるため読書環境づくりとして国内で出版された絵本を網羅的に収集する方針がとられている。

ほかに、復刻版の「講談社の絵本」「オズボーン・コレクション」などを収集している。

また、集団用の読み聞かせのために、大型絵本・大型紙芝居もリストとともに収集されている。



図7. 児童図書研究室



図8. 児童図書研究室準開架書庫

「平成21年度の蔵書統計」によれば、児童室資料の総冊数は約78,000冊である。年間の増加数は、約580冊である。また、「児童図書研究室」用の総冊数は約60,000冊、年間の増加数は、約2,100冊と多い。

読書活動支援資料として利用されている児童用図書の総冊数は、約8,000冊である。

中学生以上に対して実施された来館者満足度調査(回収424枚)の「児童資料の量と質」の結果では、満足110名、どちらでもない105名とほぼ半々である。不満足の影響は15名である。わからないが146名と多い。アンケート調査の対象が中学生以上であるためと考えられる。

児童書、絵本については、中学生以下の調査が望まれる。また、児童資料利用者のみの統計がないため、1日、年間利用者数等不明である。

8-2. 「読みくらべ絵本」

(平成19年12月現在)

日本の絵本	外国の絵本
いっすんぼうし	マッチうりの少女
うらしまたろう	あかずきん
おむすびころりん	うかれバイオリン
かぐやひめ	おおかみと七ひきのこやぎ
かさじぞう	おやゆびひめ
かちかちやま	三びきのこぶた
かもとりごんべい	しらゆきひめ
きんたろう	シンデレラ
こぶとりじいさん	ジャックとまめのき
さるかに	ちびくろサンボ
したきりすずめ	ながぐつをはいたねこ
つるのおんがえし	にんぎょひめ
はなさかじいさん	ねむりひめ
ふるやのもり	はだかの王さま
ももたろう	ピノキオ
わらしべちょうじゃ	ブレーメンのおんがくたい
	ヘンゼルとグレーテル
	みにくいあひるの子

表6. 読みくらべ絵本リスト

昔話絵本については、表6.の「読みくらべ絵本」が特長的である。外国の絵本はグリム童話が多いことに気づかされる。同じ題材で出版されている「ももたろう」「三びきのこぶた」など34冊が提供され、展示・勉強会・調査研究に活用されている。基本的な利用は、個人貸出はせず、団体・施設貸出として、学校図書館へ支援が行われている。

8-3. 各務原市立中央図書館の場合

各務原市立中央図書館のホームページ^{注37)}によると、児童サービスの中で「昔話絵本コーナー」が設置されている。語り継がれ、読み継がれている日本・世界の民話などである。

ホームページのデータがないため、児童サービス担当者にたずねると、絵本の総所蔵冊数は約 22,000 冊、年間増加冊数は約 700 冊である。

また、「昔話絵本コーナー」の総冊数は約 650 冊、年間増加冊数は約 24 冊である。(平成 22 年 3 月現在)

絵本の年間利用冊数は約 90,000 冊、1 日約 300 冊である。「昔話絵本コーナー」の年間利用冊数は約 3,700 冊、1 日 13.5 冊との回答であった。(平成 21 年 10 月～平成 22 年 9 月)

絵本の 1 日約 300 冊の利用冊数に比し、「昔話絵本コーナー」の利用は 13.5 冊と全体的に少ないようである。

9. 絵本の重要性

1) 石井桃子女史と絵本

単位(%)

	5 歳	4 歳	3 歳	その他
絵本全体が一つの話のすじを追ってできているもの	66	1	0	20
2, 3 ページごとに話がまとまっているもの	23	48	2	37
1 ページごとに 1 場面を構成しあるいみをあらわしているもの	6	14	6	26
1 ページのなかにそれぞれ独立した事物をいくつか書いてあるもの	4	10	38	16

表 7. 子どもはどんな絵本をこのむか

表 7. は文部省教材等調査委員会幼稚小委員会「言語」編集委員会の調査を山田巖雄 [ほか] の共同発表 (昭和 34 年度)『子どもの読書の導

きかた』^{注 38)} のデータである。

150 の幼稚園のこどもたちを対象とした調査があげられている。

児童文学作家・翻訳家の故石井桃子女史(1907～2008)は、子どもの絵本の重要性について、「耳でお話をきいているうちから、それと平行して、絵本をたのしむことができる」^{注 39)}と述べている。

子どもに与える絵本は「のり物や花や動物の絵がかいてあり、かんたんな説明のついている絵本ばかりならんでいる」となげかれている。

表 7. の調査結果をみても「5 歳児には、すじのあるお話の絵本が必要、頭の働きに格段の差がつく」ことが実証されていると述べられている。

2) 河合隼雄氏と昔話

臨床心理学者の故河合隼雄氏 (1928～2007) は、スイスのユング研究所に留学し、昔話を深層心理学の立場から研究された。グリム童話を中心にまとめられた『昔話の深層』^{注 40)}の中で、「昔話は子どもの頃から大好きであった。(中略)自分の人間形成の上に、大いに影響をうけたと思われる」。

グリム童話の心理学的観点から、子どものころに読んだお話が「意識の世界から無意識の世界へと還り、その間に望ましい関係をつくりあげる。無意識の世界へと降りていく手段として、昔話に頼ろうとする。(中略)長い間、昔話が生き続けるのは、魂が込められているからだ」と述べている。

また、『昔話と日本人の心』^{注 41)}のなかでは、「西洋において学んだ分析心理学の概念や方法が、そのままではうまく日本の昔話にあてはまらない。(中略)西洋のようにめりはりのきいた分析を簡単には許さぬ性質をもっている」と述べている。

日本の昔話と西洋の昔話をくらべ、「日本の昔話は極めてあつかいにくい」、その一つとして、「あわれ」「うらみ」の美意識のため、「西洋の分析、解釈し得る完結した構造」に比し、「分析を拒否する構造」を持っている。

「すべてを失った無の状態に至る。(中略)そのような点を探し出してこそ、日本の昔話を分析し得たことになるのではなからうか。」と述べ、日本人の心の在り方が、昔話に直接、接することで見えてくると説明づけられている。

10. まとめ

絵本について、主に「民話」「昔話」の相違、実習園、公共図書館の実態をまとめてみる。

絵本とは、主たる内容が絵で描かれている本のこと。また、絵本は12, 3世紀の「絵巻物」が日本の絵の起源である。その後、発展せず、江戸時代の赤本が絵本のスタイルとする説がある。この赤本が、明治期に「赤本絵本」として子どものおもちゃと同等の扱いを受けていた。

子どものための絵本の最初は1891(明治24)年、文語体ではあったが、『こがね丸』を『少年文学』に刊行した巖谷小波である。

『日本お伽噺』の刊行では子どもに話すように文章化し、漢字にルビをふり、グリム童話の紹介では日本人向けに翻訳・翻案をした。

口演童話の活動により、子どもたちにお話を広めたのも小波であった。

その後、1908(大正7)年、小波の絵本のスタイルを批判して芸術性を追求した『赤い鳥』が鈴木三重吉によりが刊行され、日本の児童文学が幕開いた。『赤い鳥』の刊行をきっかけに多数の児童文学者が輩出された。

戦後になると、「ベタリ絵本」はアメリカの翻訳の影響を受け、白い余白の絵本となり、小波の求めた分かりやすい絵本、楽しい子どもの絵本が発展していくことになった。

「民話」は民俗学で語られる口承文芸の一つである。「昔話」は「民話」の一種である。「昔話」はいくつかの決まった様式によって展開される特徴をもつ。近年、「昔話」を「民話」と呼ぶことが多い。しかし、定説はない。

「童話」はお伽噺・伝説・寓話など「グリム劇」でこどものための物語、創作物語に使用される。児童文学の同義語にも使用される。

「民話」「昔話」「童話」については、『赤い鳥』の創設者、鈴木三重吉の創刊から創作童話の意

味で「童話」が広まった。

創作童話の言葉があっても、創作民話、創作昔話はない。この違いを理解すれば、「民話」「昔話」との違いが理解できるだろう。

学生による実習園の昔話絵本、童話絵本については日本・外国の絵本の総数として、昔話絵本が平均12%、童話絵本が平均9%の所蔵率であった。全体的に現代の創作絵本が平均80%で圧倒的な所有率で人気も高い。

公共図書館の「児童サービス」における絵本の提供については、長年にわたり「児童サービス」として利用者に提供されているため、絵本の種類を区分し、多角的な利用方針がとられていることがわかった。

岐阜県図書館の「児童図書研究室」の「読みくらべ絵本」や各務原市立中央図書館の「昔話絵本コーナー」の設置が特長的であり、子どものために利用促進が図られていた。

各務原市立中央図書館の「昔話絵本」の利用については、現代の創作絵本の1日の貸出冊数が、約300冊に対し、約13.5冊で4分の1と少ない。

公共図書館でも、有効に絵本を活用してもらうため、「昔話絵本」の利用促進を図る必要があることがわかった。

11. おわりに

「絵本」とは何かについて、主に、「民話」「昔話」の絵本について大雑把な検証を行った。

課題・反省点

1) 「絵本」「民話」「昔話」等について、用語の解説にとどまり、代表的な絵本リストをあげるにとどまり、明確な相違を検証するまでに至らなかった。

2) 日本における子どものための絵本が、子どもにどのように受け入れられ、影響を与えたかも十分に論じることができなかった。

3) 実習園における昔話・童話絵本の実態調査については、学生自身が「昔話」・「童話」、特に「民話」と「昔話」について十分な知識、理解不足のため、正確なデータがとれなかった。

利用促進

1) 実習園に不足する絵本の利用を、地元の公共図書館と連携、協力し利用したい。

特に、昔話絵本の利用を促進したい。

実習園では絵本の所蔵総冊数が平均1,500冊であった。公共図書館の10分の1、岐阜県図書館とは100分の1と圧倒的な格差がある。公共図書館の積極的な利用を促したい。

今日、民間で語られ、伝承されてきた「民話」や「昔話」は「再話」により子どもたちに読み聞かされている。

2) 0歳児の絵本の利用を促進したい。

「文字が読めない幼児が独りで絵本を開いて楽しむのは、絵を読んでいるからです」^{注42)}と松居直氏は述べられている。

3) 高齢者への読み聞かせを促進したい。

河合隼雄氏は、「絵本の読み聞かせは、絵本の力を最大限に生かす方法である。各家庭で、祖父母や両親の誰かが、読み聞かせをするのを大いにすすめたい。学校や教師もどんどん取り組むべきである。逆に、こどもたちが高齢者の人たちに絵本の読み聞かせをする、というのも素晴らしいことだろう」^{注43)}と絵本の可能性について述べられている。

4) 5歳児にはもっと内容・すじのある絵本を読み聞かせたい。

石井桃子女史の5歳児からは3・4歳児とは違い、充分絵本のすじやまとまった内容を理解できることが述べられた。絵本の与え方を考慮する必要がある。

5) 創作「童話」絵本をもっと活用したい。

「再話」で刊行されている、浜田広介・宮澤賢治・新美南吉・坪田譲治・小川未明などの童話作家の作品を読み聞かせに活用する。

子どものための絵本を最初に刊行した巖谷小波の分かりやすく、楽しい童話をめざし、松居直氏が主張される「絵本は子どもに読ませる本ではない。大人が子どもに読んでやる本です。」^{注44)}の考えに基づき、今後の読み聞かせに活かしていければと考える。また、司書資格を受講する学生や図書館では積極的に民話絵本を提供し、活用していきたい。

謝辞

幼稚園実習において、各実習園に対し、課題レポートの調査にご協力いただき感謝申し上げます。個人情報には充分配慮いたします。

また、各務原市立中央図書館の児童サービス担当者の方々には、お忙しいなか、快く質問に回答していただき感謝申し上げます。

註

- 1) 26) 28) 新村出編『広辞苑』第6版 岩波書店 2008
- 2) 5) 6) 7) 24) 大阪国際児童文学館編『日本児童文学大事典』第2巻 人命な〜わ 事項・逐次刊行物 大日本図書 1993
- 3) 11) 17) 19) 20) 22) 23) 黒澤浩 [ほか] 編 『新・こどもの本と読書の事典』ポプラ社 2004
- 4) 42) ~ 44) 河合隼雄 [ほか] 『絵本の力』岩波書店 2001
- 8) 13) 石井正己編『昔話と絵本』三弥井書店 2009
- 9) 12) 14) ~ 16) 三宅光一編著『昔話のすすめ：よりよく子どもを理解するために』増補改訂版 大学教育出版 2010
- 18) 27) 29) 白木茂 [ほか] 編 『児童文学辞典』東京堂出版 1970
- 30) 32) 33) 稲田浩二 稲田和子編『日本昔話ハンドブック』三省堂 2010
- 34) 35) 児玉孝乃『幼稚園における絵本・紙芝居の利用に関する現状：司書資格受講生による実習園実態調査をもとに』東海学院大学短期大学部 2010
- 38) 39) 石井桃子『子どもの読書の導きかた』国土社 1972
- 40) 河合隼雄『昔話の深層：ユング心理学とグリム童話』(講談社 + α文庫 F1・2) 講談社 1994
- 41) 河合隼雄『昔話と日本人の心』(岩波現代文庫：学術71) 岩波書店 2002
- 10) <http://jp.wikipedia.org/wiki/>
- 21) <http://www.kodomo.go.jp/index.jsp>
- 36) <http://library.pref.gifu.jp/>
- 37) <http://library.city.kakamigahara.gifu.jp/>

—児童教育学科—